

科目担当者氏名		科目担当学生 (メールアドレス)
(ふりがな)	おくの たくじ 奥野 卓司	
連絡責任者氏名		科目担当学生 (メールアドレス)
(ふりがな)	みうらこうきちろう 三浦耕吉郎	関西学院大学 社会学部
授業科目名	科目認定番号	受講者数
社会調査実習 I	KSGa-090713-0	

## I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：学生が個々にテーマを決め、以下に述べる方法によって、テーマの決定から、調査企画から調査実施、パワーポイントによるプレゼンテーションまでを行ったほか、全員での宝塚劇場、梅田芸術劇場での参与観察行い、一部で映像による参与映像調査、また最終的には調査報告論文集の作成・編集までを行った。学生それぞれの今後にとって、非常に有益であったと思う。

## II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：情報メディア・デジタルコンテンツ・映像関連産業の方向、方法、特色
2. 調査の内容/概要：インタビュー、フィールドワークなどの質的調査による音声、画像などの質的データを、インターネット、コンピュータを使って解読する。
3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：情報メディア関連産業の従事者およびユーザー、マニア、同人サークル
4. 主な調査項目：生活者、マニアのニーズの変化、多様性を調査し、どのような方向に新たなビジネスモデルを構築すべきかに関して。

## III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法：インタビュー、グルイン、フィールドワークなど。
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：学生各自の興味、関心、資質により、各自が分散して、BSTBS、パトリア、システムディ、エスケイジャパン、コニカミノルタ、サントリー、東京ビッグサイト (コミケ)、東京秋葉原、宝塚劇場、梅田芸術劇場、梅田四季劇場などで随時行った。
7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：質的に多様で有益な生活情報、コンテンツ情報の制作・流通・消費過程における貴重な調査データが得られた。

## IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：デジタル映像、パワーポイントなどを使って、KJ法を奥野流に変更した方法により、プレーンストーミングとブログを使った討論をもとにして、解釈した。
9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：多様なコンテンツ・サービスに関するビジネスモデルが提案された。個別には、社会調査井協会としての当然の責務として、オタクたちのプライバシーに心理的影響をおそれなければならぬことや、ビジネスとして実施されるものがあること、インフォーマントの権利保障のため、詳述はしない。
10. 報告書刊行の予定と概要：刊行しましたが、公開はしません。(文科省の情報教育についての指針および現在のインターネットの状況を熟慮して、大学の教育の中で、学部がまとめた研究成果を、学生全員の承認なしに、公開するのは、著作権上も教育上の信用の上でも問題があると思いますので。)

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の\*印の箇所には数字を(\*/\*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通り)にして、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。